

「笑顔と温かい言葉の布施」

お盆の季節を迎えました。私の寺はお盆にご門徒のお宅を訪問し、お内仏でお経をあげさせていただきます。ご親戚までもが一堂に会し、心待ちにしています。

10年ほど前のお盆のこと。ご主人を亡くされて初盆を迎えられる、老婦人のお宅を訪ねました。普段は一人住まいで、仕事の都合で東京に住まわれている息子さんが、盆・正月に帰省されるのを楽しみにしていらっしやいます。いつも明るく迎えてくださっていたのに、何だか様子が違います。老婦人には笑顔がなく、息子さん家族も何かよそよそしい感じです。

お経が終わり老婦人と2人になった時、重々しく涙を浮かべて話されました。お孫さんから「おばあちゃんなんか、だっ嫌いや」と言われたそうです。詳しく話を聞いていると、その背景が分かってきました。ご主人を亡くされてからは、寂しさ、孤独感、不安感に襲われ、母を案じて回数を多くして帰省される息子家族に、年寄りのひがみや愚痴を話すことが多くなってしまったのです。それが、幼くて人生の道理が理解できないお孫さんには耐えきれなかったのです。お孫さんは明るいおばあちゃんできて欲しかったのです。

『仏説無量寿経』に「和顔愛語」という言葉が出てきます。和らいだ顔をして、親愛の情のこもった言葉を交わすことを意味し、人と人とのあるべき大切な姿を教えてください。だれでも、どこでも、心掛ければすぐにできる布施です。老婦人に、この笑顔と温かい言葉の布施を勧めました。しばらくして老婦人宅を訪問すると、以前の様に全員で明るく迎えていただけました。やれやれ…。

今年もお盆に訪問するのが楽しみです。